

講習No.
H12
必修

教育の最新事情(初等教育)

講習の開催地
宇治キャンパス

講習の期間 **平成26年10月25日(土)・26日(日)**

受講料 **12,000円**

定員	時間数	試験方法	担当講師
150人	12時間	筆記試験	中村 博幸(臨床心理学部臨床心理学科教授・教職担当) 寺田 博幸(臨床心理学部教育福祉心理学科教授) 山本 早苗(臨床心理学部教育福祉心理学科准教授) 中島 千恵(臨床心理学部教育福祉心理学科教授) 張 貞京(京都文教短期大学幼児教育学科講師) 河合 由里(京都文教短期大学幼児教育学科講師) 田中 亨胤(兵庫教育大学名誉教授・京都文教短期大学非常勤講師)

講習の概要

「教職についての省察」、「子どもの変化についての理解」、「教育政策の動向についての理解」、「学校の内外での連携協力についての理解」の4つの領域に関する教育課題について、最新の状況や動向をもとに、学校教育全体からの視点と初等教育(幼稚園・小学校)の現場に絞った専門的視点から読み解く。主な受講対象者は幼稚園及び小学校教諭、養護教諭、栄養教諭とする。

平成26年10月25日(土)

1限 9:00~10:30(90分)	2限 10:45~12:15(90分)	3限 13:15~14:45(90分)	4限 15:00~16:30(90分)	5限 16:45~17:15(30分)
グローバル時代における「生きる力」 学習指導要領総則の趣旨や近年の審議会の議論を踏まえた上で、グローバル時代における「生きる力」とその力を培うための連携について省察する。とりわけ、幼児期の保育者と小学校教員が連携してどのように「生きる力」を育てていけば良いのか、海外の事例にも触れ、実践への問いを提供する。	教員スタンダードとしての専門的職能性と倫理性 教員に求められる教育実践力の向上につながる基本視座について確かめる。社会変化の現実を受けとめるとともに、教員が身につける「子ども観」「発達観」「教育観」、教員としての倫理性や品格などの諸点から、専門職者としての教員のスタンダードについて省察する。	子どもの発達への理解と子どもの育ちに対する支援の重要性 近年改訂された幼稚園教育要領にも示されている、子どもの発達に対する捉え方の変化について理解を進める。また、社会や家庭環境の変化に伴う子育て支援の必要性、さらに発達障がいの子どもの理解と支援の重要性について、カウンセリングマインドを持って見る視点で考えたい。	特別支援教育に関する新たな課題 発達障害の診断に用いられるDSMが第5版に改訂され、広汎性発達障害という表現がなくなった。発達障害に関する理解を明確にし、その対応を考える必要がある。発達障害の早期発見と対応によって、発達障害を減らす視点を持ち、教育に取り組むための手がかりを学ぶ。	修了認定試験

平成26年10月26日(日)

1限 9:00~10:30(90分)	2限 10:45~12:15(90分)	3限 13:15~14:45(90分)	4限 15:00~16:30(90分)	5限 16:45~17:15(30分)
学校における危機管理「情報化と都市化(反地域化)の中での子どもの安全」 グローバル社会の特徴である、反地域化と情報・ネットワーク化に対して、大人は経験した既存の社会をもとに再構築していくが、その経験がない子ども達は、準備のないまま全く違う状況におかれてしまう。その事をふまえて、子どもの「安全」について考える。	「子どもが互いに認め合い、高め合う学級集団づくり」の取組と教師の役割 個が存在感を実感するとともに、互いに認め合い、高め合う学級集団を形成するため、教師が果たすべき役割や個への働きかけについて、以下の視点から考察する。 ・学校教育目標の具現化と学級経営の構想 ・学級集団づくりと教科等の指導	生きる力と学ぶ意欲 学習指導要領の理念である「生きる力」を育むために、知・徳・体の調和のとれた指導が求められている。主体的に学ぶ意欲を喚起する指導や道徳・特別活動の指導について具体例を紹介しながら理解につなげる。	学校・家庭・地域社会の中で育てるコミュニケーション力 自然災害も含めて子どもを取り巻く厳しい状況を見ると、学校・家庭・地域社会との連携は不可欠なことである。情報化社会が急速に進む中で、コミュニケーション力を育む上での課題と必要性について考える。	修了認定試験

備考

交通機関の不通や気象警報発表により講習が休講となった場合、振替講習を実施予定です。

10月25日(土)の振替日：平成26年12月20日(土)、10月26日(日)の振替日：平成26年12月21日(日)